

金時新品種「秋晴れ・かちどき」栽培試験（2年目）

1. 目的

帯広市地域における金時新品種「秋晴れ・かちどき」の品種特性や栽培適性について、検証及び普及啓蒙を図る。

2. 実施場所

帯広市川西町 帯広市農業技術センターほ場

3. 栽培方法

(1) 品種 : 「秋晴れ」、比較品種「かちどき」

(2) 面積および区制

1区面積 37.8 m²；畦幅 70cm×3畦×18m、反復無し

(3) 耕種等概要

土壌区分	土性	前作	栽植密度	栽培方法
沖積土	壤土	大豆	70cm×20cm	露地

※1株2粒播き

(4) 施肥・防除

土改資材 (kg/10a)	施肥量(kg/10a)						防除回数	
	施肥時期	肥料名	窒素	リン酸	加里	苦土	病害	虫害
炭カル 60kg	基肥 5/28	豆用2号 100kg	4.5	21.0	10.0	4.5	3	3

4. 試験結果

(1) 生育概況

播種は5月26日に行った。出芽期は6月6日で概ね順調であったが、一部、欠株や出芽遅れもみられた。特に、「かちどき」の通路沿い一畦の出芽不良が目立った。6月16日に補植を行った。

6月下旬の高温により開花始は平年より4日程度早かった。6月上旬以降の少雨及び7月中～下旬の高温・干ばつ天候であったが、草丈は市作況調査平年値（品種福勝）より10cm以上長く、一部蔓化もみられ、倒伏も発生した。成熟期は平年よりやや早かったが、一部、補植した株や出芽遅れの株は開花・着莢の遅れと9月以降の低温により登熟が遅れた。着莢数は7月中～下旬の高温・干ばつによりやや少なかった。8月下旬の降雨により一部色流れ粒の発生がみられた。また、登熟遅れによる着色不良も多かった。倒伏の発生が8月中旬頃からみられ、それに伴って腐敗粒の発生も目立った。

「秋晴れ」と「かちどき」の比較：

「秋晴れ」の出芽期、開花期、成熟期は「かちどき」とほとんど同じであった。「秋晴れ」の草丈は「かちどき」より短かった。一方、「かちどき」は茎の蔓化が見られ、倒伏程度がやや多かった。黄化病の発生は両品種とも少なかった。

(2) 収量調査

10a 当り収量は「秋晴れ」が 187kg、「かちどき」が 186kg で同じであった。百粒重は「秋晴れ」が 55.5g、「かちどき」も 55.4g と、これも同じであった。屑粒率は両品種とも多かったが、「秋晴れ」が 30%で、「かちどき」25.2%より多かった。屑粒率のうち着色不良が約 50%、残りは小粒、腐敗粒で、両品種とも着色不良が非常に多かった。等級は、「秋晴れ」が等外、「かちどき」が 3 等下で、「かちどき」がやや優っていた。

参考：生育調査・収量調査等のデータ

① 生育及び作業ステージ

品種	播種月日	出芽期	開花始	開花期	成熟期	収穫月日
秋晴れ	5/26	6/6	7/9	7/10	9/2	9/3
かちどき	5/26	6/6	7/9	7/10	9/2	9/3

② 生育及び収量調査

品種	草丈 (cm)	1 株 莢数 (個)	倒伏 程度	子実重 (kg/10a)	百粒重 (g)	屑粒率 (%)	うち 色流れ 着色不良 (%)	等級
秋晴れ	61.6	16.6	少	187	55.5	30.0	15.3	外
かちどき	67.0	16.6	中	186	55.4	25.2	12.2	3 下

5. 考察

本年は小粒や腐敗粒、着色不良粒の発生が非常に多かった。

「かちどき」区に出芽遅れや補植による登熟遅れの株が多く混在し、刈り取り時期を見合わせていたが、その間に、「秋晴れ」と「かちどき」の登熟の早い株は色流れや腐敗粒が発生し、一方、登熟遅れの株は着色不良粒が多く、それが品質の低下に繋がった大きな要因と思われる。

○生育経過



かちどき道路側畦の出芽が不良 21.6.11



開花始め頃の生育 21.7.9
左：かちどき 右：秋晴れ

かちどき開花始め 21.7.9



茎葉黄変期頃 倒伏発生 21.8.13